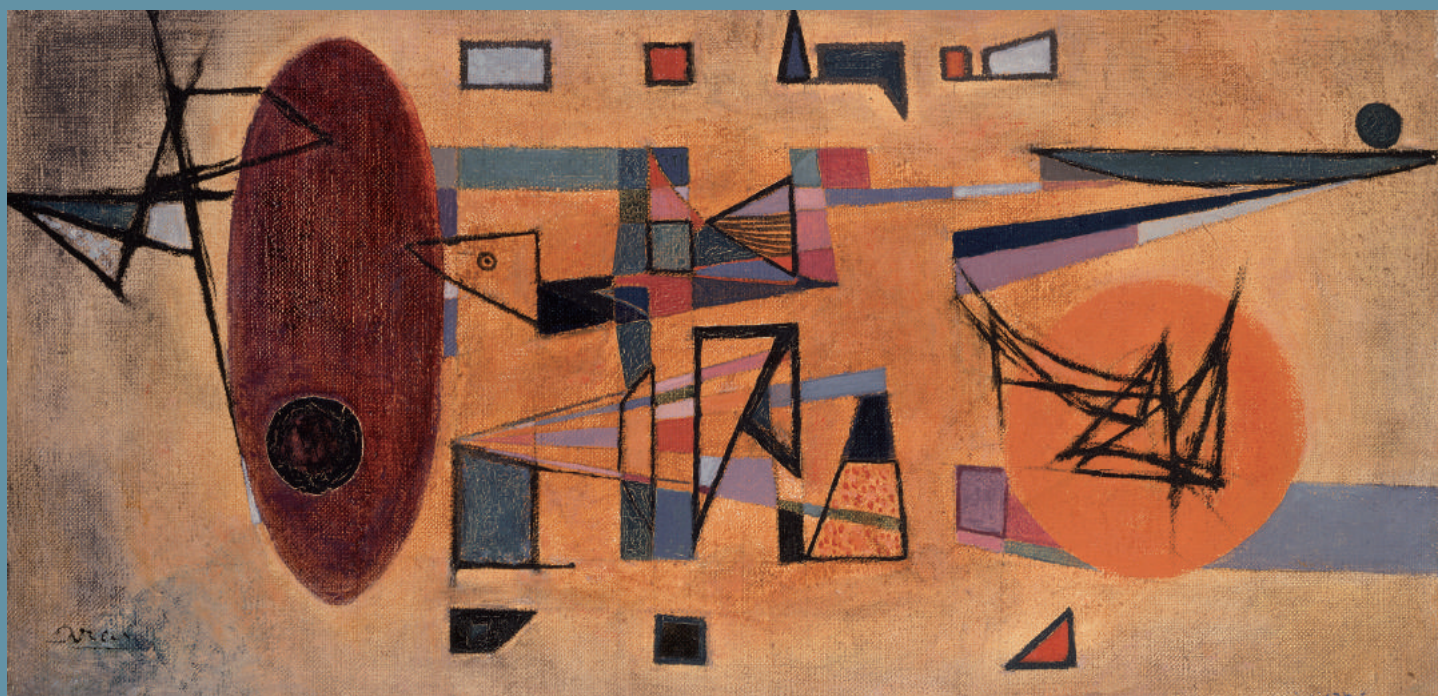




荒井龍男《天に昇りたい》1954年

音に夢みる

2018 コレクション展Ⅲ

DREAM IN SOUND AND MUSIC



恩地孝四郎《あるヴァイオリニストの印象》1947年

2018年 8月3日 金 ▶ 9月17日 月
大分県立美術館 3階 コレクション展示室

前期 8月3日 金 8月28日 火

後期 8月30日 木 9月17日 月

◆ 8月29日(水)は展示替えのため休展

開館時間 10:00-19:00
※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

観覧料 一般 / 300 (250) 円 大学生・高校生 / 200 (150) 円
※中学生以下は無料 ※作品は一部展示替えを行います

※()内は20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料
※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として
観覧する場合は無料 ※大分県芸術文化友の会 及び KOTOBUKI 無料、TAKASAGO 無料、UME 団体料金
※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料
※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

OpAM 大分県立美術館
Oita Prefectural Art Museum

お問い合わせ | 大分県立美術館 TEL : 097-533-4500

beyond
2020

音に夢みる

DREAM IN
SOUND AND MUSIC

芸術は見えるものを

再現するのではなく、

見えるようにすることだ

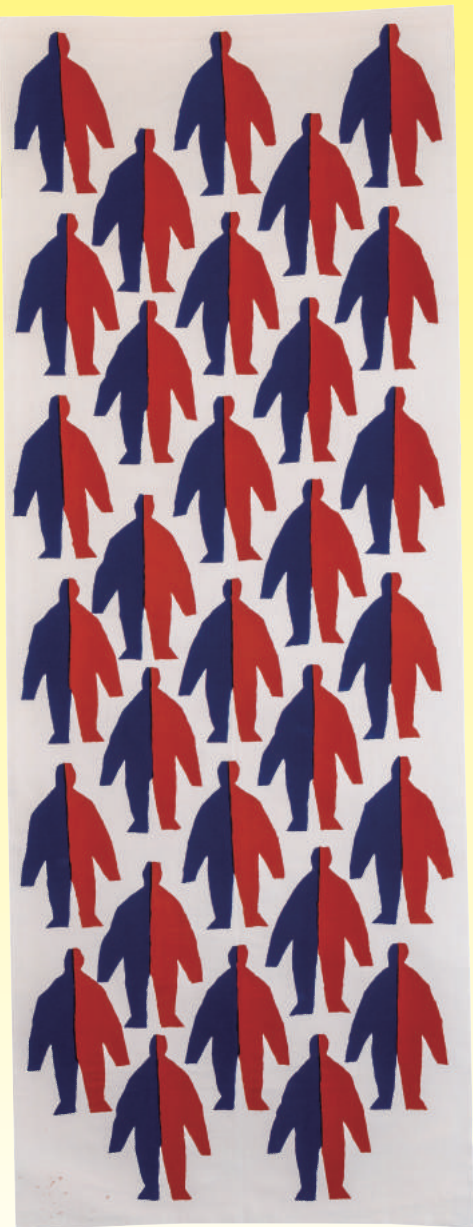
(画家 パウル・クレー)

演奏に耳を澄ますと色や形が思い浮かび、絵を観ていると音やメロディが聴こえてくる、そんな体験をしたことはありませんか。

音楽をこよなく愛し、音楽的な要素の造形化を試みたドイツの画家、パウル・クレーの言葉にもあるように、目には見えない「音」の世界の神秘は、

目に見えるものに表現される絵画芸術の発展において重要なエッセンスとなってきました。

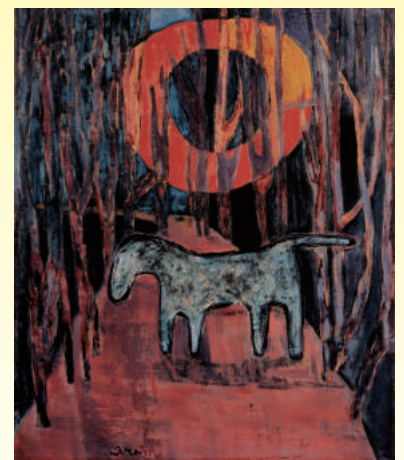
今回のコレクション展では、楽器をモチーフにした作品、リズムや音、調べを連想させる抽象的な作品、音楽的な抒情が込められた作品などご紹介し、音と美の交わりへと目を向けます。



柚木沙弥郎《人、人、人》2001年



田口杜《楽奏》昭和初期 寄託品



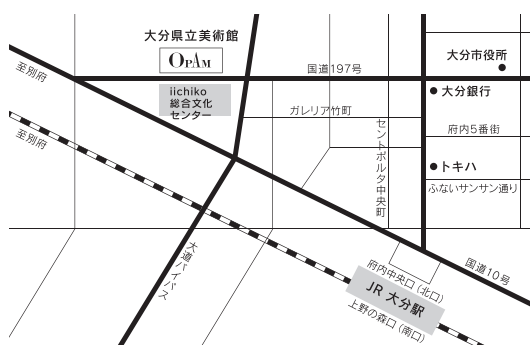
荒井龍男《太陽と犬》1950年

ギャラリー・トーク

予約不要・要観覧券

コレクション展では、大分県立美術館が収蔵する作品を、テーマをもとに学芸員がセレクトしています。学芸員が、「音」や「リズム」にちなんだ今回の展示のみどころを解説します。

8月12日(日) 8月26日(日) 9月9日(日) 14:00-15:00 / 8月31日(金) 17:00-18:00



開催中の企画展

人間・高山辰雄展

2018年
7月7日(土) ▶ 8月19日(日)

自然と人間の深いつながりや、そこに横たわる生命の尊厳について思慮し、制作を重ねた大分を代表する日本画家。70余年にわたる画業を各時代の代表作により紹介します。

次回企画展

日本モダンの精華

京都国立近代美術館コレクション

2018年
9月28日(土) ▶ 10月21日(日)

京都国立近代美術館が所蔵する近現代の日本美術の名品を多数紹介し、歴史と伝統が育んできた京都の絵画を紹介します。また同館に収蔵されている「首藤コレクション」も展示します。